

2 調査結果

第1回（令和6年12月26日実施）結果

連携して取り組んでいること・取り組みたいこと

カテゴリ	団体区分	内容
活動の情報交換	地域活動団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 小地域での活動では、関わる地域や人が限定されてしまうので、ボランティア団体など幅広い活動を行っているところとの情報交換の機会があれば、活動に関するヒントやアイデアなど参考にできるのではと感じた。
支援に向けたアプローチ・連携	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 生活困窮は制度で対応できる人ばかりではなく、解決に至るには自分たちだけでは難しいので、個別のケースに合わせて様々な団体・機関と連携している。市内には知らない団体がまだいるので、つながりを広げていきたい。 ● 当事者の単位・範囲が難しい。ひきこもり・高齢者という単純な区切りだけではないため、その人のケースに応じた様々な当事者団体が発展できればと思う。
地域づくり・居場所づくり	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護サービス事業所として、健康づくりと地域づくりを一体的に行う必要性を感じている。また、すでに具合が悪くなっている方では、高齢者の終末期として、自宅を望むのか、病院を望むかなど、本人を尊重するための判断が難しい。身近な相談場所として、元気で健康なうちから自分の生き方を考えていくよう意識づけをしていきたい。

連携・協力関係を生むために重要だと思うこと

カテゴリ	団体区分	内容
支援に向けたアプローチ・連携	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 市・社協など、公的な機関が主導となった呼びかけが必要。分野を問わず、支援できる団体が一堂に会する機会を設けられたら良いと思う。 ● 地域ケア会議などに参加しているが、会議形式だとかしまって発言しにくい。ため、発言のしやすい環境づくりが大切だと感じる。ゆるやかなつながりを広げて、ハブになる場所や人が大切だと思う。
	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 人の生活には区切りがなく、福生市に限定する必要もないため、広く声をかけていくことが大切だと考える。最初から中学校区のような枠組みをつくるのではなく、広く寄せ集めて、コーディネートできるような体制が良い。 ● 居場所同士でもかかわりができると、横のつながりが広まると思う。
相談しやすい体制	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 1つの家庭で問題が混在しており、専門外のことに時間を費やすこともある。また、情報が多すぎて選択できない、相談できないという人もいるため、窓口が分かりやすくなるとありがたい。
地域づくり・交流	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域に顔を出すようにしており、イベントへの声かけなどもしている。何かあったときは地域の人や高齢者とかかわりのある事業者から「こういう人がいた」と声をかけてもらっており、そのようなつながりの大切さを感じている。

活動を通じて感じる地域の課題

カテゴリ	団体区分	内容
支援に向けたアプローチ・連携	地域活動団体	● 小地域福祉活動としてメンバーで周辺の状況を把握し、見守りも兼ねて声かけもしている。何回伺っても会えない人がいるが、薬局、床屋、会食など地域の人が情報が入ってくることもある。
多問題を抱える家庭	福祉事業者	● 支援をする中で紐解いていくと、ごみ屋敷、ひきこもり、病気の疑いなど、家庭環境の問題が見えてくる。自分たちでは手に負えないこともあるので、様々なパターンに応じて、相談先に連れて行ったり保健所につないだりしている。
孤立を防ぐかわり	福祉事業者	● 昨今は独居に限らず、家庭内でも孤立状態になっていることがあると感じる。
	NPO・ボランティア団体	● 支援者でもかわりを諦めてしまうようなケースがないとは言えず、そういった方の孤立が怖い。制度での解決は難しく、地域の見守りなどが必要。
	地域活動団体	● 転入して仕事一筋でやってきた方、特に男性は定年を迎えた後に燃え尽きてしまい、外に出ない、地域の人と馴染めないという状況に陥る。結果、ごみ屋敷となり、孤立するということもある。早い段階で地域に一步踏み出すことができれば、地域のことが良く見えるようになり、なじむことができると思う。
市民意識・セルフネグレクト	福祉事業者	● 誰に助けを求めていいかわからない人や、身内の外に繋がること、頼ることへの不安・恥ずかしさを感じている人がいると思う。
	NPO・ボランティア団体	● 外国籍の人が多く、日本人でも日本語を話せない人がいる。現状、日本語ができない人の雇用はかなり厳しい。在留資格がかかわるので、こちらでどうできるところではないこともある。日本語を話せない人には日本語プログラムへの参加を促しているが、もう少し理解できた方が生活しやすいのではという方でも、「自分は理解できている」という自信があり断る人もいる。

支援が必要な人に対し団体・事業者としてできること・うまくいっていないこと

カテゴリ	団体区分	内容
孤立を防ぐかわり	地域活動団体	● 参加者への声掛けで、家族を連れだしてもらおうなど地域とのつながりを持ってもらうようにしている。
居場所づくり	福祉事業者	● 市役所の窓口のハードル高いことが課題だと感じる。本当に困っている人は窓口に来ないので、地域の相談窓口づくりが重要。 ● 地域の中で、気軽に立ち寄り、おしゃべりする中で不安を話せるような場をつくりたい。一般の人だけではなく、看護師やケアマネなど専門家が常駐し、健康チェックなどを通じて話を聞き、道筋をつくってあげることで、安心感や支えに繋がるのではと思っている。 ● 熊川地区に新設した福祉施設は、庭とデッキを広く、開放的にした。子どもも遊びに来てくれる場になればと思っている。
	NPO・ボランティア団体	● 現在、フリースペースづくりを進めており、来る理由を問わず、受付・予約も不要としている。居心地が良く、ただ居ていい場所。人目から閉ざされた公園のような場所が福生市にもっと広がっていったらと思う。

		<ul style="list-style-type: none"> ● 生活困窮の方がいきなり仕事に就くのはハードルが高いため、フリースペースの当番をお願いしてはどうかと考えている。無償にはなるが、中間的就労として就労体験の場になればよい。課題もたくさんあり実現は検討中。
地域づくり・交流	地域活動団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもや子育て家庭を巻き込まなければ、地域活性にはつながらないと感じている。PTAに呼び掛けることで、両親や祖父母が夏祭りを手伝ったり、遊びに来てくれたりする。

第2回（令和7年1月7日実施）結果

連携して取り組んでいること・取り組みたいこと

カテゴリ	団体区分	内容
活動の情報交換	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 近隣市も含め、同様の傾聴活動をしている団体と、活動の実態について話す機会があるとよい。
団体の情報発信	障害者団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害を持つ子の保護者に寄りそい、同じ立場でわかりあえるよう活動を行っているが、不安や葛藤を抱える保護者にとっては、足を踏み出しづらいところがある。早くに活動や情報を知ってもらえるよう、FVAC や社協など、公的なところの後援などがついていけば、アクセスしやすくなるのでは。
支援に向けたアプローチ・連携	障害者団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 30歳を過ぎて働いたことがなく、相談支援・サービス利用もないという方などは、保護者も悩み、疲弊し、外で迷惑をかけるなら、と支援を受けるまで時間がかかってしまう。障害福祉課から情報をいただき、連絡を取っているが、一步を踏み出しやすいようなシステムが連携してできるとよい。 ● 就労や就学などの専門家と、当事者団体が連携して支援できるとよい。ペアレントメンターの要請を市がもっと積極的に呼びかけてよいのではないか。
	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校と家庭が子どもを取り巻く環境の基本だが、学童に迎えに来ないひとり帰りの子どもとは、家庭とのつながりを持たず対応に苦慮することも多い。学校との関係性が良くなかったり、学童に対して協力的ではなかったりするなど、家庭の問題がなかなか外に出ないケースもある。学校や行政、施設と話をする機会がなく、つながることがうまくいっていない。個人情報のためということでは理解できるが、話し合えないと解決できない課題もある。うまく連携していければよい。
	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 傾聴ボランティアは電話や対面など様々な選択肢があると、相談先として頼りやすくなるのではと思う。会としては独立を求められているが、当事者の細かい情報は小さい団体では扱いきれないので、難しい。社協のもとでやっている活動という安心感も重要だと感じている。
居場所づくり	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内で150名くらい不登校の子どもがいると聞いている。市が用意している場所もあるのだと思うが、合う合わないがあるので、地域の人が得意分野を活かして、子どもの生活力を高め、何かやりたいという気持ちがわいてくるような緩やかな支援やつながりを持てる居場所があるとよい。 ● 同じ問題を抱える人が集って悩みを語りあえる場が必要で、いろいろな共通

		<p>項目の場をつくれるといいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 人を集めるのは得意だが、場所の確保が難しい。土日に使用していないところを、フリースペースのように開放してもらいたい。カフェやサロンのような形で人目につくところでいろいろな人が集まって飲食をしているというのが、居場所づくりには大事だと考えている。
--	--	--

活動を通じて感じる地域の課題

カテゴリ	団体区分	内容
セルフネグレクト・多問題を抱える家庭	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 高齢者への支援を行うなかで、その子ども、孫など、家族が多問題を抱えていながら支援につながっていないケースがある。自分からつながれない人、福祉のお世話にはなりたくないという意識が根強い。どう一歩を踏み出せばよいかわからない方がいる。
支援に向けたアプローチ・連携	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 傾聴の活動上、アドバイスはしないことになっているが、アドバイスが欲しいという人への対応を検討している。相談先を直接教えることはできないが、明らかに支援が必要だと感じた場合は、社協へ報告するようにしている。
	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 介護保険事業につながる人はいいが、水面下で表に出てこない方への支援が一番の課題と感じている。どう見えるようにして、公的なものにつなげていくのかを考えていけないといけない。2025年問題と言われていた年を迎え、8050問題、ヘルパーの担い手など、今後連携しながら考えていかなければならないと思う。 ● 本人の意思がない限り、支援までは届かないため、情報共有はできても次の一歩が進まないこともある。様々な立場の方がかわり、その人にとって信頼できる人、本人に合う人を通じて結び付くというのも手段と思う。
	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 0～18歳それぞれの年代が抱える問題、学校や不登校の問題を把握している。配慮の必要な子ども多数おり、その子に合った対応を日々考えているが、人手不足で難しい面もある。 ● 外国籍の子どもも多く、家では外国語、学校では日本語と、ストレスを抱えて荒れてしまう子がいる。 ● 外国人、日本語が難しい子どもは、市から翻訳機を借りているが、うまく機能せず、ちょっとした相談でも回答するのに30～40分かかってしまう。
	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 課題に対して資源を開発していくというコミュニティソーシャルワークを行っていく必要があり、地域の得意なもの、資源を持ち寄って、上手に課題を解決できるようなコミュニティビジネスのようなことができればよいと思う。市や社協が中間支援組織として活躍してほしい。同じ領域で活動している人に声掛けをして、現状を共有できるようにしてほしい。
困窮家庭の実態	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 物価高もあり、慢性的に高齢者の生活が苦しく、食べ物が不足しているという課題がある。フードバンクが子どもへの配付だけに切り替えることになったが、高齢者がますます食べ物に困るのではないかと危惧している。 ● 不登校になりかけている子の背景には、ひとり親で働いておらずご飯を食べていない、宿題の管理ができていないなど、家庭力が弱体化しているので学

		習支援、生活支援といったサポートが必要だと感じる。
市民意識・交流	障害者団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 障害のある人が地域の中で生きていく場所、住める場として、グループホームが増えてほしいと思うが、実際に近所に障害者施設ができるとなると、反対する方もいる。地域に理解をしてもらう機会が一番大事と考える。 ● 障害者の余暇活動のため、市内サッカーチームに協力いただいてサッカー体験をしている。特技をお持ちの地域住民に少しずつかかわってもらえれば、地域の中での理解も深まっていくと感じる。地域の目が一番のセキュリティになると思う。
サービスの質	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 放課後デイやグループホームなど、施設としてはたくさんできているが、質が懸念される。民間施設の事業者がすごく増えているので、ぜひしっかりとした監査を市にやってもらいたい。
相談しやすい体制	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 認知症家族の会を見ると、近年は子育て中の母など働き盛りの若い年代が増えている。働いている世代に向けて SNS などを活用したアプローチしやすいような相談窓口が必要だと感じる。

支援が必要な人に対し団体・事業者としてできること・うまくいっていないこと

カテゴリ	団体区分	内容
地域づくり・交流	障害者団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域福祉計画の中で、障害児・者が地域の中の一員として溶け込めるような施策が作ればよいと思う。できることは限られるが、マイノリティの方の役に立ちたい。
	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国人世帯が増え言語の問題が大きくなっている。来年度から多文化キッズサロンを開催予定。学習、相談機能、交流機能など検討中だが、まずは周知し、ニーズの吸い上げから始めていく必要があると考えている。
	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域とのかかわりに参加できていないが、声をかけてもらえれば、情報提供やつながりづくりができると思う。また一住民として子どもたちへの声掛けをしていきたい。

第3回（令和7年1月10日実施）結果

連携して取り組んでいること・取り組みたいこと

カテゴリ	団体区分	内容
支援者に対するアプローチ	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 困っている人がいることは把握しているが、誰がというところまでは情報として入ってこないため、もどかしく感じる部分がある。把握している人と連携したいが、個人情報の守秘義務があると思う。
団体の情報発信	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 傾聴のニーズは増えていくと考えられるため、団体として支援できることはしたい。民生委員や社協、包括など困りごとを把握している方を通じて、団体の活動を共有してもらうことで少しずつ連携が取れるとよい。
活動の情報交換	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 労働力人口が減っている中、福祉人材の確保や、採用後の定着が課題となっ

		ている。福祉法人や福祉施設同士でどのような工夫をしているかなど、情報交換する機会があれば良い。
--	--	---

活動を通じて感じる地域の課題

カテゴリ	団体区分	内容
支援に向けたアプローチ・連携	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校に行っていない人の受け入れをしているが、週1回しかできていない。それ以外の日をどう過ごしているかまでは把握できていない。 ● 上のきょうだい为学校に行かないことで、下の子が学校に行かないことのハードルが下がる問題があると感じている。気持ちは尊重すべきだが、大人になって生活困難になることを防ぐ、教育を受ける機会の支援が重要では。
孤立を防ぐかかわり	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 社協のほっとサービス事業として、利用者から緊急連絡が入ったことがある。一人暮らしの高齢者に何かあった時、どう対応すればよいのか不安になった。状況によって社協と連携しながら対応していくことになる。
相談しやすい体制	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 都内の他自治体では20歳代・30歳代の方の電話傾聴の利用者がいるそうだ。悩みや不安を打ち明ける機会として、ニーズがあると感じている。

支援が必要な人に対し団体・事業者としてできること・うまくいっていないこと

カテゴリ	団体区分	内容
居場所づくり	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 所有しているマンションの一部屋を活用している。活動していない日もあるので、信頼関係を築いた方であれば、活用してもらうことは可能。 ● 子ども食堂に加え、高齢者の孤立防止に食事の場を提供している。部屋を分けているわけではないのだが、子どもと高齢者で座る部屋が自然と分かれてしまい、あまり世代間の交流はできていないかもしれない。高齢者からは声をかけている様子もあるが、関わりすぎて嫌がられたりすることもある。
居場所づくり・交流	福祉事業者	<ul style="list-style-type: none"> ● 福祉施設を地域の方に知ってもらうため、作業棟を活かして、カフェとして開放することを考えている。障害者施設として、色々な人がいるということを地域の人に知ってもらう必要があると感じている。
居場所づくり・相談しやすい体制	NPO・ボランティア団体	<ul style="list-style-type: none"> ● 例えば市役所の一角など、ちょっと立ち寄って話を聞いてもらうことができる場所があれば良いと思っており、できることをしていきたい。 ● コロナ禍は対面傾聴の活動場所がなくなったため、解散も考えたが、福祉センターに入浴に来る方がいるため、そこで傾聴をすることになった。1年くらい続けたが来る方が減ったため現在は実施していない。

**第7期福生市地域福祉計画策定に向けた
基礎調査報告書**

令和7年3月 福生市

発行：福生市役所 福祉保健部 社会福祉課
〒197-8501 東京都福生市本町5番地
代表電話：042-551-1511